

## 私の「新入生演習」

経営学部国際経営学科教授 西岡 健夫

### 経営学部における新入生演習

経営学部では、14～5回の演習のうち、半分は各教員が担当するクラスに対してそれぞれ行い、後の半分の演習については、他のクラスを順に巡回するという方式で実施された。後者の巡回方式においては、新入生に対して、経営学部にはどのような専門のどんな教員が教鞭をとっているか一通り紹介するということと、それを通じて、2年生から始まるゼミナール（必修。原則として4年生まで持ち上がり）を学生が選択するのに際して、参考の一つに供するということが目的に込められていた。この巡回方式は、かなり機能したように思われるが、今後についてはさらによく検討してみる必要があるだろう。

前者の担当クラスでの演習においては、内容の大枠だけ決めておいて、後は各教員の自由裁量にゆだねられた。私の場合は、大学での勉強の仕方、大学生活を有意義に楽しく送る方法、経営学各分野の案内、レポートの作成や報告発表の仕方などをテーマに取り上げた。

### 私が行った演習内容

以下、14回にわたり私が行った新入生演習の内容を記すことにする。

#### 4月5日（土）

履修指導。

履修要綱に基づいて卒業要件、カリキュラム構成、共通科目・学科科目、必修・選択科目、時間割などについて説明。手続き的なことを中心にした。

#### 4月8日（火）

履修指導。

この日は、手続き的なことよりも、教育体系、カリキュラムの趣旨・目的に重点を置いて説明した。履修指導に2回も使うのは多すぎるかもしれないが、意味はあるように思う。高校まで

とはかなりの違いがあり、とまどう新入生が少なくないからである。

4月15日(火)

- ① 学生と私の自己紹介。
- ② 追手門学院の歴史、伝統と理念。  
借行社時代まで遡って話す。
- ③ 大学というところ。
  - ・ 大学は自由  
自己責任を  
受身でなく積極的に
  - ・ 大学教育と資格  
資格にも挑戦してほしい。同時に、大学生らしく、広く深い教養、自分なりの「もの  
見方」も身につけてほしい。
  - ・ 就職活動  
3年生後半から開始。  
具体的な準備方法を説明。
  - ・ アルバイトは一石二鳥で  
アルバイトをする場合、それを通じて経営や経済も学ぼう。
  - ・ 仲間づくり
  - ・ 有意義に、楽しく  
かけがえの無い4年間

4月22日(火)

全クラス 図書館の案内

4月29日(火)

開学記念日

5月6日(火)

Rクラスへ。

私の簡単な自己紹介。

大学というところ： 4月15日の圧縮バージョン

経営学各分野の案内： 5月13日の圧縮バージョン

5月13日(火)

経営学部の各分野の案内。

経営分野：経営学概論，経営組織論，経営倫理論，経営戦略論  
マーケティング論，生産管理論，人的資源管理論，財務管理論  
国際経営学，異文化間コミュニケーション，ヴェンチャー論

会計分野：財務会計  
管理会計

法律分野：商法，民法，経済法，  
知的財産法，税法，行政法など

情報分野：数理科学（OR など）  
情報科学（IT 関連）

以上のように，経営学部で行われている教育の概要を説明した。私自身は，その中で経営分野に属しているため，経営分野の説明が詳しくなったが，他の3分野についても基本的なことはわかってもらえたと思う。

また，経営学と経済学の違いについて時々質問を受けるので，それについても説明した。さらに，経営学には学際的な性格があるので，関連分野（社会学や社会心理学）についても触れた。

時事問題の重要性についても強調し，新聞を読み，報道番組を視聴する習慣をつけるように勧めた。

5月20日(火)

Qクラスへ。5月6日と同じ。

5月27日(火)

Pクラスへ。5月6日と同じ。

6月3日(火)

Oクラスへ。5月6日と同じ。

6月10日(火)

① 図書館案内

経営・経済関係の雑誌について説明。

東洋経済，日経ビジネス，ダイヤモンド，ハーヴァード・ビジネス，エコノミストなど。

経営・経済用語の調べ方について説明。

各用語辞典の置き場所に案内。

② エクステンション・センター案内

さまざまな資格と、エクステンション・センターにおける講習会について説明。

③ 国際交流センター案内

留学生との交流について。

④ 次回までの宿題

経営用語調べ、新聞スクラップ。

日本経済新聞と経済雑誌について。

6月17日 (火)

Nクラスへ。5月6日と同じ。

6月24日 (火)

Mクラスへ。5月6日と同じ。

7月1日 (火)

Vクラスへ。5月6日と同じ。

7月8日 (火)

大学での学習の仕方について。5月13日の「内容論」に対して、この日は「方法論」を中心にした。

① 本や雑誌の読み方 (線引き、付箋などについても)

② 講義でのノートのとり方

③ レジュメと、その作り方

④ レポートの作り方、

⑤ 報告 (プレゼンテーション) の仕方

③と⑤については、不完全ながらも、実地に指導した。レジュメの材料としては新聞スクラップを用いた。報告は、できるだけ「自分の言葉」で行うように求めた (しかし、なかなか難しいようだった)。

**今後の展望**

以上が、私が行った新入生演習のあらましであるが、いくつか反省点がある。

### 1. 双方向、実地指導

4月15日、5月13日の内容論については、もう少し双方向的に進められなかったかなと思う。また、7月8日の方法論については、もっときめ細かい実地指導が必要だと思う。報告の仕方、レポートの書き方などは、一朝一夕ではマスターできない。きめ細かい実地指導と、かなりの時間が必要であろう。

### 2. 遊びの要素

2年生以上のゼミナールでは、コンパ、ゼミ旅行などを重視しているが、新入生演習では行えなかった。しかし、大学は友達をつくる場でもあるから、これらは大切である。今後の課題にしたい。

### 3. 近隣の案内

例えば、川端康成記念館、茨木市中央図書館や、追手門学院大学の近辺を案内してもよいと思う。これもユニヴァーシティ・アイデンティティを高める一助になるだろう。

### 4. 大学らしさ、追手門らしさ

大学とは何か、大学に行く意義、その中で追手門はどこが違うか (University Identity) について、もっと明確に話す必要がある。「追手門に来て本当によかった」と思ってもらえれば、それに越したことは無いのだが。

規制緩和されて競争アリーナが広がっている。大学は専門学校とどこが違うのか、追手門は他の大学とどこが違うのか、を考えることが非常に重要である。これは難しい問題だが、こういうことをもっと意識して今後の新入生演習に臨みたいと思う。

### 5. 実践的なこと

4とも関連するが、「理論と実際」についていかに考えるかは大きな問題だと思う。とりわけ経営学部においては、分野の性格上それは重要である。理論と実際は、基礎と応用、長期と短期、マクロ的視野とミクロ的視野、総合システマ的視野と局部的視野などとパラレルな関係にある。その中で、一般的には大学は前者を分担している。社会的分業を考えれば、それで済ませてよいのかもしれないが、近年の状況から見て、それでは済まなくなっている。しかし、実際界（専門学校も含めて）と同じことをしても大学の存在意義が失われるだけである。経営戦略的には差別化 (Differentiation) をはかることが欠かせない。

では、具体的にどうすればよいか？ もちろん私も確たる答えは持ち合わせていないが、まず授業では、理論的なことの理解を容易にするために極力「具体例」を挙げて、理論と実際の間

架け橋をかける努力をしている。だが、考えてみれば、果たして理論 (Theory) 無しの実際はあるのか？ それは無いはずである。スポーツでも基本 (Theory) は不可欠である。また、実際に役立つことをと言うが、それは突き詰めればどうということなのか？ 長期的に見れば How-To だけでなく、広い教養や、ものごとを自分なりに深く考える力も大切である。私自身を顧みても、経営学、経済学の「理論」は言うまでも無く、文学、歴史から自然科学まで色々学んだことが実際の仕事に少なからず役立っている。また、現実の判断 (意思決定) の局面で、マックス・ウェーバーやチェスター・バーナードの理論、あるいは意思決定論やゲーム理論を想起することも少なくない。これらも実際に役立っている部類に入れてもよいだろう。会社勤めの経験から見ても、実務的なことは就職してからも割合短期間に習得できるように思う。むしろ大学では、『実社会に出てからではできないようなこと』をやっておく方が、結局は役立つのではないか？ 実は、この点は私自身、今になって反省している点でもある。

#### 6. 動機付け

しかし、5で述べたことは独善であってはならない。学生に受け入れてもらわなければ何にもならない。そのためには、理論的なことでもわかりやすく、取っつきやすく、面白くする必要がある。もっとも、わかりやすくすることまではできても、面白くして関心を持たせることは難しい。だが、何とか関心を持ってもらい、学習の方に学生を「動機付け」するような具体的工夫をこらす努力が、私にとってもさらに必要だと思っている。これにより、学生に対して学問の世界の「ガイド役」を務め、大学時代に学問分野の面白さがわかってもらえればと願っている。

また、私が専門分野について話をして学生に受け入れてもらおうとするのなら、私の方も学生の若者文化 (ファッション、音楽、映画であれ、マンガ、アニメ、ゲームであれ) にもっと触れるべきで、それも「現代の教養」の一部なのかなとも思っている。この点も課題である。新入生演習をしていて10代の若者に会うと、こうした点を痛感する。

#### 7. 内容の調整

5, 6では、少し脱線してしまった。本論に戻って新入生演習についてだが、現段階では以上のように様々な課題が残っていると思う。また、内容については、お互いにもう少しそろえる (標準化とまで行かなくても) 必要があるかもしれない。こうした点は、学部の中でさらに検討、ディスカッションをしてみる必要があるだろう。